

# News Letter

2020年  
11月  
中国四国農政局  
香川県拠点

## !!! 讃岐六条の水車 ~高原水車~ !!!



高原水車水車場

雨の少ない讃岐平野には、昔からたくさんのため池が作られ、そこから流れる水の恩恵を受けてきました。その貴重な川の水を利用して水系ごとにたくさんの水車が回り、人々の生活を支えていた時代がありました。かつて香川県には348基の水車があったという記録があります。（『讃岐の水車』（昭和63年出版））

高松市六条町に所在する「高原水車（たかはらすいしゃ）」は、四国で唯一現存する日本最古級の水車場です。

高原水車は、江戸時代に旧古川の地形を利用して高松藩士が始めた水車です。明治35年に高原太吉氏が水車を譲り受け、製粉、精米、精麦などの事業を行っていました。その後、昭和42年に水車を新装しましたが、平成2年頃に水車が破損し稼働を休止しました。

「壊れた水車を再び回そう」と、平成26年に有志が集まり「高原水車友の会」を設立、復活に向けた活動が始まりました。

平成29年12月、「高原水車友の会」が中心となり、福岡県の水車大工・野瀬さん親子や西日本工業大学の池森名誉教授などが加わり、解体作業に取りかかりました。

その後、水車の復元作業に入り、平成30年2月に直径約4.5mの水車が完成しました。

高原水車は、平成25年に産業考古学会から「推薦産業遺産」に認定され、平成28年には、「讃岐六条の水車及び関連用具」として、県内では3例目の国の登録有形民俗文化財に登録されました。



高原水車の図面

また、令和2年2月には、「高松市美しいまちづくり賞（活動部門）」を受賞しました。

現在、高原水車は、平田恵美さん（鎌倉市在住）、堀家みどりさん（多度津町在住）の姉妹が、友の会の力を借りて管理しています。

場所は、「高松市六条町672」で、12月を除く毎月の最終土曜日、10時から15時まで一般公開されています。ご関心のある方は一度訪れてみてはいかがでしょうか。



高原水車